

船舶滿載吃水線法案特別委員會會議事速記録第一號

委員氏名

委員長 伯爵堀田 正恒君
副委員長 男爵斯波 忠三郎君

男爵赤松 謙次郎君
男爵永 範一君
大村 吉之助君
星島 彦太郎君
橋本 謹一郎君
辰二郎君

大正十年二月十六日(水曜日)午後二時九分開會

○委員長(伯爵堀田正恒君) ソレデハ是カラ委員會ヲ開會致シマス開會致シマスルニ方リマシテテヨット御諮リ致シタイノハ、質疑ニ這入リマス前ニ政府當局カラ御説明ヲ仰イデハ如何デゴザイマセウカ、異議ガナケレバ御説明ヲ願ヒタイト思ヒマス

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○委員長(伯爵堀田正恒君) 御異議ガナイヤウデアリマスカラ政府當局ノ御説明ヲ願ヒタイト思ヒマス
○橋本辰二郎君 御説明ヲ願ヒマスルノハ結構デアリマスガ、其後デ本案ニ關係ノアル參考書類ガアリマスナラバ、其書類ノ御配付ヲ委員長カラ御要求ヲ願ヒマス

○委員長(伯爵堀田正恒君) 承知シマシタ

○國務大臣(野田卯太郎君) 本案ハ本會デモ申上ゲマシタ通り大體ノ趣意トシマシテハ、極ク簡單ナモノデアリマス、船舶ノ滿載吃水線ヲ設ケル、造船ノ基礎ヲ定メルト云フコトガ大體ノ趣意デアリマス、其取扱方ニ至リマシテハ種々ノ規定ガ要ルト思ヒマスカラ、十七條ニ載ッテ居ルモノハ主ニソレデゴザイマス、又此上ニモ細則ガ必要デアラウト思ヒマスガ、其邊ノコトハ政府委員ヨリ委シク御説明ヲ致シマスカラ御賛成下サラムコトヲ御願ヒ致シテ置キマス
○委員長(伯爵堀田正恒君) 唯今遞信大臣ヨリ御説

明ガゴザイマシタガ、尙委シイ御説明ヲ仰イデハ如何デゴザイマセウカ
(「贊成」ト呼フ者アリ)

○政府委員(若宮貞夫君) ソレデハ御免ヲ蒙リマシテ私カラ本法案ノ大要ヲ申上ゲマス、本法案ノ目的、效果、内容等ヲ申上ゲルニ先ダチマシテ、順序ハ轉倒イタシマスルガ、國際關係ノアルコトデゴザイマスカラ、簡單ニ其方ヲ先ヅ以テ御參考マデニ御耳ニ入レテ置キタイト思ヒマス、申上ゲルマデモナイコトデゴザイマスガ、此法案ノ趣旨眼目ト致シマスル所ハ、船ガドレマデ重サヲ積ミ得ルカ、何處マデ船ヲ沈メタラバ宜イカ、其處マデ沈メテ航海シテモ安全デアルト云フ線ヲ極メルト云フコトガ勿論眼目デゴザイマス、此制度ハ早ク英吉利ニ行ハレマシテ、凡ソ唯今カラ三十年前ニ此制度ヲ布キマシテ嚴重ニ取締ラ致シ來タノデアリマスルガ、英吉利ガ自國ノ船舶ニノミ此制度ヲ採用イタシテ居リマスルコトノ結果ハ、斯カル制限ノナイ所ノ外國ノ船舶ト營業上ノ競争ニ於テ屢々不利益ニ達スル場合ガ起キテ參リマス、ソコデ其後英國ハ法律ヲ改メマシテ之ヲ英國ノ港ニ出入スル所ノ外國船舶ニモ適用スルト云フコトニ致シタノデアリマスルガ、是ヲ改正イタシマスルニ付テハ、關係諸外國ニ於テ成ルベク同様に制度ヲ布イテ同ジヤウニ取締ラシテ欲シイト云フコトノ希望ヲ申シ通ジマシタ、即チ我が國ニ對シマシテモ明治四十二年ニ、英吉利カラ申込ガゴザイマシテ、日本ノ政府ニ於テモ協力ヲセラレタイ、而シテ非公式ノコトデゴザイマスガ、日本デモ何レ此制度ヲ布カレルコトデアラウカラ、此制度ヲ設ケルコトニ付テ英吉利ガ援助スベキコトガアルナラバ、遠慮ナク申越シテ貰ヒタイ、相當援助ヲ致スト云フマデノ話合ヲ受ケテ居ッタノデアリマス、ソコデ遞信省ニ於キマシテハ其ノ機會ヲ捉ヘマシテ、專門ノ技術官ヲ英國ノ商務院ニ派遣セラレテ、其第一次ノ調査研究ニ著手セラレタノデアリマスルガ、爾來諸外國ニ於キマシ

テモ、即チ此英吉利ノ法制ニ則リマシテ、同ジ制度ヲ段々設ケルヤウニ相成リマシタ、而シテ其結果ト致シテ、各國ノ間ニ互ニ其效力ヲ互認イタスト云フ慣例ニ相成リマシタ、又ソレガ一步進ミマシテ各國ノ間ニ凡ソ統一シタル所ノ制度ヲ設ケテヤラウデハナアカト云フ話ガ進行イタシテ、現ニ先般ノ大戰前ニ於キマシテ萬國會議ヲ開クト云フマデノ經過ニ相成ッタノデアリマスガ、其會議ハ戰亂勃發ノ爲ニ延期ニ相成ッテ居リマス、去リナガラ此處ニ御臨席ニ相成ッテ居リマスル所ノ斯波男爵ガ萬國商事會議ニ御出席ノ際ニ於キマシテ、此問題ヲ提起セラレマシテ、各國ノ間ニ統一のニヤラウデハナアカト云フ事ヲ提案セラレタノデアリマス、昨年同ジ商事會議ニ於キマシテ之ヲ關係各國ノ政府ニ建議スルト云フノ決議ト相成ッテ居ルヤウナ次第デゴザイマス、即チ國際關係ニ於キマシテ、今日ノ狀勢デハドウシテモ船舶ヲ有シテ海外ニ航海ヲ營ンデ居ル所ノ國ハ此制度ヲ布イテ、サウシテ各國ノ間ニ之ヲ互認ヲ致シ、又一步進ンデハ統一スルト云フコトニ基礎ヲ置カナケレバナラスト云フ狀勢ニ迫ッテ參ッタノデアリマス、日本ノ船舶ハ是マデ如何ニ致シテ居ッタカト云フコトヲ申上ゲマスルト云フト、即チ唯今申述ベマシタヤウナ英國其他主モナル國ニ於テ此制度ヲ布イテ居リマスルカラシテ、ソレ等ノ外國ニ航海ヲ致ス所ノ日本ノ船舶ハ是ガ強制ヲ受ケナケレバナラヌノデアリマス、ソレデアリマスカラシテ、ロイド協會其他外國ノ政府ガ承認シテ居リマス所ノ船級協會ノ檢定ヲ受ケマシテ吃水線ノ標示ヲ以テ航行ヲ致シテ居ルノガ御承知ノ通りノ實況デアリマス、斯カル狀勢ノ下ニ我が國ニ此制度ヲ設ケルト云フコトノ必要ガ迫ッテ參リマシタノデ、豫テ大正六年ニ御協賛ヲ受ケマシテ若干ノ調査費ヲ頂戴イタシテ、ソレニ依テ鋭意調査ヲ繼續イタシテ居ッタノデアリマスガ、昨年漸ク一應ノ調査ヲ完了イタシマシタニ付キマシテ、速ニ法案ノ編纂ニ取掛リマシテ、今回御協賛ヲ仰グ運ビニ相成ッ

タ次第デゴザイマス、勿論御承知置キノ事ト心得マ
スガ、先ツ本法ノ概要ヲ是カラ申上ゲマス、此法案
ノ主眼點ト致ス所ハ申上ゲルマデモナク、船舶ガ航
海ノ安全ヲ保チ得ル程度ニ於テ搭載シ得ベキ所ノ重
量ノ最大限度ヲ定メマシテ、載荷重量……積ミマシ
タ重サガ此限度ニ達シタ場合ニ於ケル所ノ吃水線、
即チ滿載ノ狀況ニ於ケル吃水線ノ位置ヲ船ノ兩舷側
ニ一定ノ形ヲ以テ現ハレテ、此標シヲ越ヘテ船ヲ沈
メルト云フコトヲ禁ジャウト云フコトガ、主眼點ニ
相成ツテ居リマス、次ニ此制限ヲ致ス所ノ效果ガ那邊
ニアルカト云フコトヲ簡單ニ申上ゲマス、先ツ第
一ノ效果ハ是亦申上ゲルマデモナク、船舶ガ積ミ過
ギニ依ツテ、即チ船ヲ沈メ過ギタト云フコトニ依ツテ、
直接又ハ間接ニ生ズル所ノ海難ヲ防ギタイト云フノ
ガ是ガ第一ノ要點ニナツテ居リマス、又第二ニハ此吃
水線ヲ定メテ置キマセスト云フト、船長初メ乗組員
ガ船ノ安全ヲ期シタイト云フコトノ爲ニ、尙ホ荷物
ヲ積ミ得ルニモ拘ラズ、此邊ガ極度デアラウカト云
フコトノ見計ヒヲ以テ、荷物ヲ積ム方量ヲ定メル、其
結果トシテ尙ホ少シク積ミ得ルニモ拘ラズ、積ミ足
ラズシテ航海スルト云フコトノ不利益ヲモ亦防グコ
トガ出來ルノデアリマス、又第三ニハ御承知置キノ
通りニ、船舶ノ本能ト云フモノハ荷物ヲ積ムト云フ
コトガ本能デゴザイマスカラシテ、總テ此船舶ノ賣
買或ハ備船ト云フヤウナ場合ニ於キマシテ市場一般
ノ慣例ハ重量噸ヲ標準ト致シテ居ルノデゴザイマ
ス、此重量噸ヲ正確ニ承知スルト云フニ付キマシテ
ハ、先ヅ其船舶ノ滿載吃水線ト云フモノヲ定メマシ
テ、其滿載吃水線マデ積ム所ノ重量ガ何程デアルカ
ト云フコトガ分ラネバ正確ナル重量噸ハ計算シ能ハ
ザル次第デゴザイマスカラ、從ツテ取引ノ標準トナ
テ居ル所ノ船舶ノ重量噸ヲ知ルト云フコト、他ノ言
葉ヲ以テ申シマスレバ造船ノ計畫ヲ立テルト云フ事
ノ標準ヲ定メルノニ、先ヅ以テ此吃水線ノ位置ヲ測
定ト云フコトガ基礎ヲナス、斯ウ云フ效果ガゴザイ
マス、大體效果トシテ申上ゲシ點ハソレ等ノ三點ニ
盡キテ居ルト思ヒマス、次ニ本法案ノ内容ニ付キマ
シテ極メテ簡單ニ申上ゲテ見マス、先ヅ第一ハ其

適用ノ範圍デゴザイマスガ、是ハ第一條ニ表ハレテ
アリマス通りニ、遠洋航路ヲ航行スル所ノ船舶並ニ
總噸數百噸以上ノ近海航路ノ航行船、之ニ適用スル
コトヲ先ヅ原則ト致シテ居ルノデアリマス、引ツクル
メテ申シマスト外海ヲ航行スル所ノ船舶ニ適用スル
ト云フコトヲ主眼ニ致シテ居ルノデアリマス、但シ
小型ノ船舶即チ船舶検査法ニ依ツテ検査ヲ致サナイ
ト云フヤウナ特殊ノ船舶デアリマス、小型ノ船
舶デアリマス、或ハ又危險ナラザル海面ヲ航行
スル所ノ船舶、或ハ又其用途ノ如何ニ鑑ミマシテ、荷
物ヲ積ミ過ギルト云フコトノ虞レノナイ所ノ船舶、
斯様ナモノヲ除外イタシテ、是等ニハ適用セス、斯ウ
云フ精神ニ相成ツテ居リマス、ソレカラ第二ニハ其實
施ノ方法デゴザイマスガ、是ハ先ヅ當該船舶ノ滿載
吃水線ヲ一定ノ技術規定ニ準據シテ之ヲ檢定イタシ
マシテ、サウシテ船舶所有者ヲシテ其檢定ニ從ツテ
或ル一定ノ形ヲ以テ、船舶ノ右舷並ニ左舷、兩方ニ之
ヲ標示イタサセル、從ツテ其標示ガ果シテ規定ノ通り
正確ニ行ハレテ居ルヤ否ヤト云フ事ヲ再ビ検査イタ
シマシテ、ソレガ正確デゴザイマスレバ、之ニ對シテ
一定ノ證書ヲ授與イタシマス、此證書ヲ以テ其標示
ノ以上ニ船舶ヲ沈下イタサセヌヤウニシテ航行シナ
ケレバナラヌト云フ義務ヲ船舶所有者ガ負フ、斯ウ
云フコトニ相成ツテ居リマス、ソレカラ第三ニハ此指
定ヲ受クベキ時はハイッデアアルカト云フコトヲ申上
ゲマス、勿論此法案ノ趣旨ト致ス所ハ船舶ノ航行
ノ安全ヲ期スルト云フコトデゴザイマスカラシテ、
吃水線ノ指定標示ヲ要スル船舶ト致シテ、初メテ之
ヲ航行ノ用ニ供スルトキ、此檢定指定ヲ致スノヲ原
則ト致シテ居リマス、又實況ニ從ツテ、船舶ガ或ハ外
國ニ居ル場合モアリマス、或ハ又内地ニ居リマシテ
モ検査ヲ執行イタサザル港ニ居ルト云フコトモアリ
得ルノデゴザイマスカラ、是等ヲ検査イタス所ノ場
所ニ回航スルト云フガ如キ場合ニ於テハ、實際困難
ヲ生ゼザルヤウニ相當ノ例外ヲ設ケル、斯ウ云フ精
神ニナツテ居リマス、第四ニハ此檢定ヲ掌ル者及ビ之
ヲ執行スル場所ト云フコトデアリマスガ、原則ト致
シマシテ、船舶ノ居リマスル所ノ場所ヲ管轄シテ居

ル管海官廳ニ於テ掌ルコトト相成ツテ居リマス、尙ホ
此管海官廳以外ニ主管ハ臣ガ適當ナリト認ムル所ノ
船舶協會ガ行ツタ所ノ検査モ亦之ヲ有效ト致シテ承
認スルコトニナツテ居リマス、而シテ之ヲ認メマス所
ノ船舶協會ハ、是ハ單リ我國ノ船舶協會ノミナラズ
外國ノ船舶協會デアリマシテモ、適當ナルモノデゴ
ザイマスレバ、大體之ヲ承認スルト云フコトノ精神
ニ相成ツテ居ルノデゴザイマス、ソレカラ此檢定イタ
ス所ノ場所ハ、大體ニ於テハ船舶ノ検査ヲ執行イタ
ス所ニ於テ之ヲ行フ積リニ相成ツテ居リマス、ソレカ
ラ第五ニハ此指定ヲ致シマスモノノ效果ヲ申上ゲマ
ス、凡ソ本法ニ據リマシテ吃水線ノ指定ヲ受ケ
ナケレバナラヌト云フコトニナリマシテ、之ガ指定
ヲ受ケテ適法ニ標示イタシマスレバ、勿論其標示シ
タル線ヲ越エテ船ヲ沈ムルト云フコトハ出來ナイノ
デアリマス、尤モ之ニモ例外ヲ必要トスル場合ガ生
ジテ來ルノデアリマシテ、例ヘテ申シマスルコト云フ
ト、内海ヲ經テ外海ニ出ルト云フヤウナ場合ニ於テ、
内海航路中ニ於キマシテハ、其内海ヲ航海スル間ニ
必要ナル石炭・水ト云フ如キモノハ滿載吃水線以上
ニ搭載ヲ致シテモ差支ナイ、斯カル場合ガ起キテ參
リマスカラ、是等ニ對シテモ實況ニ應ジテ、相當ノ例
外ハ設ケテアリマス、斯様ニ考ヘテ居ルヤウナコト
デアリマス、斯ノ如ク此標示ハ誠ニ必要ナモノデゴ
ザイマスカラシテ、是ヲ隱蔽イタストカ、或ハ變更ス
ルトカ、或ハ抹消スルト云フヤウナコトハ、嚴重ニ禁
ズル規定ニ相成ツテ居リマス、又取締上検査官吏ガ若
シ必要アリト認メマシタ時ニハ、何時タリトモ船舶
ニ臨檢シテ調査スル權能並ニ事重大ニシテ極メテ危
險ナル場合ニ於キマシテハ、船舶ノ航行ヲ一時停止
スルト云フ權能ヲ検査官吏ニ與ヘルト云フ斯ウ云フ
規定ニ相成ツテ居リマス、第六ニハ日本ノ船舶以外ノ
船舶、主トシテ外國船舶デゴザイマスガ、之ヲ如何ニ
取扱フカト云フコトデゴザイマスガ、是ハ我國ノ港
灣ニ出入スル場合ニ於キマシテハ矢張り日本ノ船舶
同様本法ヲ準用スル、斯ウ云フコトニ規定シテ居リ
マス、即チ本法ノ準用ヲ受ケマスレバ、本法ニ據ツテ
滿載吃水線ノ指定ヲ受ケ、之ヲ標示スベシト云フコ

トガ原則ニ相成ルノデアリマスカラ、最モ我政府ガ

願ヒマス

○委員長(伯爵堀田正恒君)

唯今當該大臣ヨリ本案

英國初メ其他ノ本制度ヲ布イテ居リマス國ニ於テ

認メマシテ其外國船舶ノ所屬地ノ滿載吃水線ニ關ス

ノ趣旨ニ付テ御説明デゴザイマシテ、尙ホ管船局長

ヲ布イテ、サウシテ互認ヲ致スト云フコトヲ希望シ

マシテハ、其國ノ所屬ノ吃水線ノ檢定並ニ標示ヲ受

ケテ居ル所ノ船舶ハ之ヲ改メテ檢定ヲ致サズニ認メ

ル、斯ウ云フ規定ニ相成ッテ居リマス、ソレデ尤モ此

點ニ付キマシテハ、諸外國ノ例ニ倣ヒマシテ、互惠ノ

主義ヲ執ッテ居リマス、此場合ニ於キマシテ當該國

ガ我國ノ制度ヲ認メザルト云フ場合ニ於キマシテ

ハ、我國モ亦彼國ノ制度ヲ認メナイ、言葉ヲ換ヘテ申

シマスレバ、先方ノ國ガ我國ノ制度ヲ認メテ無檢査

デ承認致タスト云フ場合ニ於テハ、我國モ其國ノ所

屬ノ船舶ハ無檢査デ承認イタス、斯ウ云フ精神ニ相

成ッテ居リマス、第十二條乃至十四條ハ是等ノ取締規

則ヲ強行イタス爲ノ罰則デゴザイマシテ、次ハ經過

ノ規定デゴザイマスカラ、本法ヲ施行シマス際ニ主

管大臣ガ承認イタス所ノ船級協會ノ檢定證書ヲ有ッ

テ居ル所ノ船舶ハ其證書ノ效力ヲ認メマシテ、改メ

テ檢査ヲ致サナイ、斯ウ云フ積リニナッテ居リマス、

ソレカラシテ次ニハ本法施行ノ順序ニ關スル要點ノ

大要ヲ申シマス、本法ハ先以テ遠洋航路ヲ航行

スル所ノ船舶並ニ五百噸以上ノ近海航路ノ船舶ニ實

施致シマシテ、以上ノモノヲ完了イタシタ上、其以下

ノ船舶ニ及ボスト云フ、斯ウ云フ順序デ實施イタシ

タイ見込デアリマス、此第一次ニ於キマスル所ノ遠

洋航路船、五百噸以上ノ近海航路船全部ニ對シマシ

テ、本法施行後約三箇年間にソレダケヲ完了イタシ

タイ、斯様ニ豫定イタシテ居リマス、而シテ之ヲ

一時ニ實施イタシマスコトハ官廳ノ側ニシテモ、實

ハ到底不可能デゴザイマス、又船主ノ側ニ於キマシ

テモ、時ニ構ハズ施行サレト云フコトハ、本法運用

上誠ニ困難ヲ感ズル次第デアリマスカラシテ、各船

カラ申シマス、各船舶ノ定期檢査ヲ受ケマス

ル時ニ、其定期檢査ト併セテ之ヲ施行致ス、斯ウ云フ

ヤウニ相成ッテ居リマス、斯様ニイタシマスレバ、各

船舶モソレガ爲ニ船ヲ留メルト云フコトハ甚ダ短イ

時間デ濟ムノデゴザイマシテ、雙方ノ便宜デアラウ

ト斯様ニ考ヘテ居リマス、概要左様ニ御承知置キヲ

願ヒマス

○委員長(伯爵堀田正恒君)

唯今當該大臣ヨリ本案

ノ趣旨ニ付テ御説明デゴザイマシテ、尙ホ管船局長

ヨリ詳シク本案ノ趣旨ニ付テ御説明ガゴザイマシ

タ、尙ホ本案ノ内容ニ就テ説明ガゴザイマシタ、其説

明ニ付テ御分リニナラナイ點ガゴザイマスレバ、唯

今御質問ヲ願ヒタイ、若モ今ノ説明ノ點ニ付テ、内容

ノ趣旨ニ付テ御質問ニナルニ當ッテ、ソレデ十分デア

ルト思召シタナラバ、此際質疑ニ入りマシテ、其廉

デ御質問ヲ仰グコトニ致シタイト存ジマス、如何デ

ゴザイマセウ

○橋本辰二郎君

唯今政府委員ヨリ法案全般ニ互リ

マシテ、詳細ナル御説明ガゴザイマシテ、大體ニ於テ

本案ノ必要ナル所以ハ了解ラヌコトガ出來マシタ

ガ、マダ此内容ニ互リ若クハ全般ノ一部ニ付テ質疑

ヲ致シタイト云フ點モゴザイマス、全體若クハ

本案ノ逐條ニ付テ併セテ質疑ヲスルコトモ御許シラ

願ヒタウ存ジマス

○委員長(伯爵堀田正恒君)

ソレデハ本案ノ趣旨及

ビ本案ノ内容ニ付キマシテ、一括イタシテ議題ト致

シマスガ、ソレデ御異存ゴザイマセスカ

御異存

ガ無イヤウデゴザイマスカラサウ云フ風ニ致シタイ

ト存ジマス、御質問ガゴザイマスレバ

○橋本辰二郎君

唯今ノ御説明ニ依リマシテ此ノ法

案ガ法律トナリマシタ上ニ於キマシテハ、各國トノ

間ニ互認セラレルト云フコトハ、御説明ニ依リマス

レバ間違ノナイコトデアラウト思ヒマス、其點

ニ付キマシテ十分ナル御確信ガアリマス、カドウ

カ、其次ニハ現在アル所ノ船級協會ノ指定ノ標準即

チ「ロイド」若クハ「ブリチッシュ・コーポレーション」

「ビューロー・ベリタス」及ビ日本ノ海事協會ノ船級部

ノ行ッテ居ル標準ニ異ッテ居ル點ガアルカ否ヤト云フ

コトニ付キマシテ御説明ヲ一應御願シタイト思ヒ

マス

○政府委員(若宮貞夫君)

第一ノ御尋ノ互認ニ付テ

確信アリヤ否ヤト云フ御尋デゴザイマス、打開

ケテ申シマスレバ先程申上ゲマシタ通り、國際ノ

狀勢ガ右様ニ相成ッテ居ルノデゴザイマスカラシテ、

願ヒマス

○政府委員(若宮貞夫君)

私共編纂イタシテ居リマ

ス所ノ所謂原案ナルモノハ實ヲ申上ゲマス、トゴザイ

マス、ソレデ尤モ此ノ施行規則ニ關シマスル事ガ二ツ

ニ分レマシテ、其一ツハ技術ニ關スル規定、其一ツハ

手續ニ關スル規定デゴザイマス、此ノ技術ニ關シマ

ス方ノ規定ハ大體出來上ッテ居リマス、レデゴザイマ

スガ、細カイ計算ヲ基礎ト致スモノデゴザイマシテ、

腹藏ナク申上ゲマス、ト云フ、官民合同ノ專門技

術者ノ更ニ協議ト云ヒマス、會議ヲ經マシテ練リ上

覽ヲ戴キマスレバ誠ニ仕合セト考ヘマス、ソレカラ施行ニ關シマス方ハ、私共ノ、管船局トシテノ草案ハゴザイマスルガ、實ハマダ省議モ經テ居ラスコトデゴザイマスルデ、是ハマダ餘リ甚ニ確定的ニ御覽ニ入レマシヤウナ程度ニハ參ッテ居リマセス、御含ミ置キヲ願ヒマス

○橋本辰二郎君 私ノ御要望イタシマシタ事柄ニ付キマシテハ、本日ノ場合ニ於テ御示シニナルノニ少シク御差支ノアル模様デアリマス、強ヒテ私ハ求ムル譯デハアリマセスガ、他ノ委員諸君ニ於テ御必要ガアリトセバ、ソレ等ノ方ヨリ重ネテ御要求ニナルカモ知レマセスト思ヒマス

○政府委員(若宮貞夫君) 後程御參考ニ取寄セテ御目ニ懸ケマシデゴザイマス

○國務大臣(野田卯太郎君) 内覽ニ供スルコトニシテ置キマスカラ...

○委員長(伯爵堀田正恒君) チョット橋本君ニ伺ヒマスガ、省議ニカ、ツテ出來上ツタナラバ、書類ヲ矢張り御手許ニ御覽ヒニナツタ方ガ御都合ガ好シイノデスカ

○橋本辰二郎君 頂戴ガ出來レバソレニ越シタコトハゴザイマセス

○委員長(伯爵堀田正恒君) 政府委員ニ伺ヒマス、如何デゴザイマス

○政府委員(若宮貞夫君) チョット速記ヲ...

○委員長(伯爵堀田正恒君) 速記ヲ止メテ...

○委員長(伯爵堀田正恒君) 速記ヲ始メテ...

○橋本辰二郎君 此法案ノ内容ニ互リマシテ少シク御尋ネ致シタイト思ヒマスルガ、第一條ノ第四號ノ末尾ニ「主務大臣ニ於テ特ニ滿載吃水線ヲ標示スル必要ナシト認メタル船舶」ト云フコトガゴザイマスガ、是ハ例ヲ舉ゲマシレバドウ云フ船舶デゴザイマセウカ

○政府委員(若宮貞夫君) 第四號ニ「漁獵、曳船、海難救助、浚渫又ハ測量ニノミ從事スル船舶」ト云フコトガ掲ゲテゴザイマス、大體除外スベキモノハ茲ニ明記シテアリマス種類ノモノデ宜シカラウカトハ

思ヒマスルガ、尙ホ外國ノ履行例、英吉利ノ履行例ヲ見マスト云フト、此外ニ「ヨット」デスナ、廻遊船ト申シマスカ「ヨット」ソレカラ水先案内船ト云フ類ノモノガゴザイマス、唯御承知置ノ通り唯今ハ日本デハゴザイマセスノデスガ、併シ早晚是等ノモノモ、現レテ參リマセウカト思ヒマシテ、茲ニ落度ノナイヤウニト云フ考ヘカラ更ニ是ダケヲ付ケ加ヘタノデアリマス

○橋本辰二郎君 ソレカラ第二條ノ滿載吃水線ノ標示ヲ要スル船舶ハ初メテ航行ノ要ニ供スルトキ之ヲ受クヘシト云フコトガアリマスルガ、是ハ小サイ船ヲ改造イタシマシテ大キイ噸數ニ直ストカ、若クハ遠海航路ニ從事シテ居ルモノヲ近海航路ニ直ストカ云フ場合ニハ必ズ此指定ヲ受クナケレバナラスト云フコトモ此中ニ含ンデ居ルモノト解釋イタシマシテ宜シウゴザイマスカ

○政府委員(若宮貞夫君) 左様デゴザイマス

○橋本辰二郎君 ソレカラ第七條ニ「船舶ニ臨視シ」ト云フコトガアリマスガ、是ハ遞信省デ御發明ニナツタノデゴザイマスカ、從來法文ニ斯ウ云フ文字ガ使ツテアリマスカ

○政府委員(若宮貞夫君) 検査法ニ同様ノ規定ガゴザイマス

○橋本辰二郎君 ソレカラ第八條ニ手数料ニ關シマシテノ矢張り規定モ主務大臣デ御定メニナルト云フコトデゴザイマスガ、此手数料ニ付キマシテハ、大キイ船舶ノ所有者ニ於キマシテハ、左程困難ハ感ジナイカハ知レマセスガ、若シモ此手数料ガ非常ニ高イモノト致シマシタナラバ、小サイ帆船ノ船主ノ如キ者、小サイ帆船ト申シマスルト、大抵船長自身ノ所有船ガ多イノデゴザイマスガ、ソレ等ノモノハ非常ニ困難ヲシナケレバナラヌカト思ヒマスル、併シ此手数料ハ現在帝國海事協會ノヤツテ居リマス其手数料トノ比較ハドウ云フモノノ割合デ御定メニナリマスル御考デゴザイマスルカ、又ハ帆船ノ如キ船價ノ極ク安イモノニ付キマシテハ、特ニ手数料ハ減額ナルト云フ御考デアリマセウカ

○政府委員(若宮貞夫君) 大體仰セノ通り考ヘテ居

リマスルガ、是ハマダ何等手数料ニ關シマシテハ、確定ヲ致シテ居リマセスノデアリマス、但シ斯ウ云フ事ハ申上ゲテモ差支ナカラウト思ヒマスルノハ、本法案ノ大體ノ趣意ガ先程申上ゲマシタ通りニ官廳デモ之ヲ司リ、内外ノ船級協會ヲシテ又同會ニ司ラシムルト云フ精神ニナツテ居リマス、ソレデゴザイマスカラシテ、自然手数料等ニ關シマシテハ、此「ロイド」其他外國ノ船級協會ノ振合、及ビ我が國ノ海事組合ノ船級部ノ振合ヲ加味參酌イタシマシテ、大體多ク異ナラザル所ノ程度ニ定メル必要ガアラウカト、斯様ニ大體トシテハ考ヘテ居リマスノデ、如何トナレバ船主ハ主務大臣ニ於テ承認シマス船級協會ノ範圍内ニ於テハ、官廳ノ指定ヲ受ケルノモ、船級協會、船級協會ト申スノハ内外ノ船級協會デアリマスガ、其承認ヲ受ケルノモ隨意デアリマスルノデ、官廳ト船級協會トノ間ニモ、及ビ船級協會ト他ノ船級協會トノ間ニモサマデ違ツタ所ノ料率ニハ事實上ナリ得ナカラウカト斯様ニ考ヘテ居リマス

○橋本辰二郎君 第十條ニ依リマスルト本法ハ内地ノ港灣ニ出入スル外國船舶ニモ之ヲ準用スルト云フコトニナツテ居リマスガ、先程ノ大體ニ於ケル御説明ニ於テ英國ハ自己ノ港灣ニ出入スル外國船ニモ適用スル、ト云フコトハ承リマシタガ、他ノ國ノ振合ハドンナモノデアリマスカ

○政府委員(若宮貞夫君) 私ノ承知シテ居リマス限リ、此種類ノ制度ヲ設ケテ居リマスル國ニ於テハ、何レモ之ト同様ノ規定ニナツテ居リマス

○橋本辰二郎君 第十一條ノ第二項ニ「本法ニ依リ發給シタル船舶滿載吃水線證書及之ニ相當スル滿載吃水線ノ標示效力ヲ認メサル外國ニ屬スル船舶ニハ之ヲ適用セス」ト云フコトガアリマスガ、若シ他ノ國、有力ナル所ノ英國トカ、佛蘭西トカ、米國トカ云フヤウナ政府ガ不幸ニシテ本案ヲ認メザル場合ニ於テハ、矢張り十一條ノ特典ハ與ヘザルト云フ御考デアリマスルカ

○政府委員(若宮貞夫君) 左様ニ相成リマス

○橋本辰二郎君 第十二條ト十七條トノ關係ヲ御説明ヲ願ヒタイ

○政府委員(若宮貞夫君) 畏リマシタ、此十七條ハ先程申上ゲルノヲ漏シタノデコザイマスガ、大體説明ノ際ニ申上ゲタ通りニ、本法成立イタシテモ、一時ニ之ヲ施行イタシマスル事ハ、遞信省ニ於キマシテモ、又船主ノ側ニ於キマシテモ、是ハ迷惑ト申スヨリハ不可能デコザイマスルノデ、ソコデ此十七條ヲ置キマシテ施行ノ順序ヲ定メタイ、斯ウ云フ考デ居リマスノデ、即チ最前概要申上ゲマシタ通りニ、凡ソ船舶ヲ配列イタシマシテ、第一年ニハ是ノ船舶ヲ行フ、第二年ニハ是、第三年ニハ是ト云フ風ニ分配ヲ致シマシテ、サウシテ其分類ニ從ッテ實施シテ參ルノデコザイマスルカラシテ、ソコデ十七條ノ規定ニ依リマシテ施行ガ後ニ廻ッテ居ル所ノ船舶ハ、其施行ノ順序ガ參リマスマデハ、第十二條ノ罰則以外ニ置カレマス、即チ罰則ヲ受ケルヤウナ虞レガナイヤウニ致シタイ、斯ウ云フ十二條ト十七條ノ關係ニナッテ居リマス

○橋本辰二郎君 是ハ假想的ノコトデアッテ、事實ニ於テハサウ云フ事柄ハ實現セザルヤモ圖リ難イノデアリマスガ、外國ニ於テ長ラクノ間航行イタシマシテ、内地ニ歸ラザル所ノ船舶ニ對シテハ外國ニ於テ檢査ノ御規定ガアルヤウニ承ッテ居リマスガ、其場合ニ於テ外國ニ於ケル檢査ト同時ニ、矢張り船級ノ指定モ御與ヘニナルト云フコトニナリマセウカ

○政府委員(若宮貞夫君) 御承知置キノ通り、唯今外國ノ實際ノ檢査ヲ致シ得ル設備ノアリマスルノハ、上海ト香港デアリマス、斯ル設備ノアリマスル所ニ於テハ、唯今仰セノ通り、若シ此該船舶ガ吃水線ノ指定ヲ必要トスル時ニナッテ居リマスレバ、檢査ト同時ニ致ス積リデ居リマス、其以外斯ル設備ノナイ港ニアリマスル船舶ニ付キマシテハ、此方ヘ歸ッテ參リマスマデハ致シマセヌ積リデ居リマス

○橋本辰二郎君 第十三條ノ第二項ニ於キマシテ、前項ノ規定ハ帝國外ニ於テ前項ノ罪ヲ犯シタル者ニ亦之ヲ適用スルコト云フ事デコザイマスルガ、帝國外ト云ヒマスルト廣イ事デアリマスルガ、他國ノ領土内ニ犯シタ事柄ニ付テハ、其所屬國ノ法律ニ付スルヨリ外

ニハナカラウト思ヒマスルガ、若シ反則ノアツタ場合ニ於テハ、當ニ其所屬國ノ罰則ヲ受ケルノミナラズ、重ネテ此法令ニ依リマシテ、帝國ノ法令違犯ト云フコトノ制裁ヲ受ケルコトニナリマスルノデコザイマセウカ

○政府委員(若宮貞夫君) 此十三條ノ規定ニ付キマシテハ、其第一項ニ規定シテ居リマスル通りニ、詐欺其ノ他不正ノ行為ヲ以テ船舶滿載吃水線證書ヲ受ケタル者ニ對スル罰則デコザイマシテ、是ハ取締上帝國以外ニ於テ犯シマシタ場合ニ於テモ、之ヲ罰シテ置キマセヌト云フト尻拔ケニナル虞レガコザイマスルノデ、刑法ノ例ニ倣ヒマシテ、特ニ此第二項ヲ置イテ帝國外ニ於テ犯シタ者ニ適用スルコトノ趣旨ヲ明カニ致シタ、此趣旨デアリマス

○橋本辰二郎君 私人質問ハ是デ終リト致シマス
○委員長(伯爵堀田正恒君) 御質問ハゴザイマセヌカ
○福永吉之助君 第十五條ニ「本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム」トシテゴザイマスルガ、是ハ何時カラ御施行ノ御見込デコザイマスルカ
○政府委員(若宮貞夫君) 來年度、成ルベク早ク施行イタシタイ、斯様ニ考ヘテ居リマス、多少ノ順序ヲ要シマスルノデ、急イデ準備ヲ致シマシテ、出來上リ次第實施イタシタイ、斯様ニ考ヘテ居リマス
○福永吉之助君 此實施ニ付キマシテハ、凡ソドノ位ナ費用ヲ要スルモノデアルカ、又其豫算ハ追加豫算ニデモ御提出ニナル御見込デアリマスカ、其點ヲ御伺ヒ致シマウゴザイマス

○政府委員(若宮貞夫君) 最前大體説明ノ際ニテ一期ノ事業ト致シマシテ、三年間ニ遠洋航路航行船、及ビ五百噸以上ノ近海航路航行船ヲ仕上ゲマス積リデコザイマス、之ヲ豫定ヲ致シマシテ三年ニ割振リマシタ結果、來年度以降ヲ以テ凡ソ三ヶ年間、約毎年六万八百圓ヅツノ經費ヲ要スル、斯ウ云フ算定ヲ致シマシタ、デ此經費ハ總豫算ノ中ニ計上イタシマシテ、不日此方ノ御協賛ヲ求メルコトニナッテ居リマス
○福永吉之助君 本案ニ直接ナ關係ハゴザイマセヌ

ガ、間接ニ關係ノアルコトデアリマスカラ、少シ此機會ニ於テ遞信大臣ニ御尋ヲ致シテ置キタイノデコザイマスルガ、御尋ネ致シテ宜シイノデアリマスカ
○委員長(伯爵堀田正恒君) 宜シイト思ヒマス
○福永吉之助君 遞信大臣ヘチヨット御伺ヒ致シマセウカ、御承知ノ通り、今日海運界ハ非常ナ困難ナ狀況ニ陥ッテ居ルヤウデコザイマスガ、從ッテ日本ノ造船業モ同様ノ事ニ考ヘテ居リマス、然ルニ海軍ニアッテ水陸設備ト云フモノヲ設ケマシテ、多額ノ費ヲ其方ニ向ケテ居ル、其中ニハドウ云フ仕事ヲシテ居ルカト云フト種々難多ノ民間ノ事業トシテ出シ得ルモノガ澤山アルト認メマス、例ヘバマア極卑近ナコトデ申シマスルト、傳馬船ヲ造ルトカ、又ハ「ラン」チトカ、或ハ給水船ヲ造ルトカ、油ヲ積載スル船ヲ造ルトカ、甚シキニ至ッテハ今申ス通り軍艦ニ積ミマス傳馬船、或ハ港務部ニ要スル傳馬船、或ハ運搬船ト云フヤウナモノマデ總テ海軍造船所デ造ッテ居ル、是ハ極ク今申上ゲル通り卑近ナモノデコザイマスケレドモ、其ノ以上ノモノデ海軍デ造ラナクトモ、民間デ造リ得ルモノガ澤山アル、態々海軍デ其工場ヲ設ケテ、係員以下ヲ置イテ、ソレダケノ費用ヲ要セヌデモ、民間ノ造船業ニ影響スルコトガ尠クアリマセヌノデアリマス、然ルニモ拘ラズ是非海軍デ水陸設備ヲ多額ノ費用ヲ掛ケテ之ヲ設備スル必要ガアルカドウカ、斯ウ云フコトハ常ニ疑點ト致シテ居ル所デアリマス、此以前海軍大臣ヘ伺ッタコトガアリマスガ、吳ノ造船所ノ附近ニ廣ト云フ所ガアル、其廣ニ莫大ナ地所ヲ買ッテ、其處ヘ造船部ヲ構ヘタ、機械ヲ製造スル所ヲ造ッテ、其機械タルヤ、固ヨリ船舶モ機械デアリマスルカラ、多少ノ異ナル點モゴザイマセウケレドモ、軍艦ノ機械トハ多ク共通ノモノデアアル、然ルニモ拘ラズ多額ノ費用ヲ掛ケテ、特ニ機械製造所ヲ増設スルト云フコトハ如何ナモノデアアルカト云フコトヲ伺ッタコトガアル、海軍大臣ノ御答ニイヤ別ニ造ルト云フヤウナモノ、海軍ノ工場ガ總テ造船ノ方ト、造船ノ方ト、或ハ製鋼ノ方ト、其他ノ部分ト比較シテ見ルト、機械ノ製造力ト云フモノガ劣ッテ居ルノデ、ソ

レヲ補フヤウニスルト云フニ過ギヌノダト云フ、斯
ウ云フ御答デアリマシタガ、縦合ヤ補フヤウニシタ
所ガ、民間デソレダケノ工場ガアルナラバ、海軍デソ
レヲ殊更ニ補フヤウニスル必要ハナイノデアリマセ
スカト、斯ウ御話シマシタ所ガ、ソレハ理窟ダ、ナ
カナカ實行上サウハ行カナイト云フヤウナコトデゴ
ザイマシタガ、固ヨリ是ハ議會デ尋ネタノデハゴザ
イマセヌ、海軍大臣カラ議員ヲ晚餐ニ呼バレマシタ
際ニ、色々其邊ノ御話ガゴザイマシテ、サウ云フ御返
事ヲ伺ッタノデアリマス、ソレデ逓信省トシテハ、如
何ニ御考ニナッテ居ルカ、海軍デ名額ノ費用ヲ掛ケ
テ、ソレ等ノ工場ヲ設備シナケレバナラヌト云フ必
要ヲ御認メニナッテ居ルカ、是ハ日本ノ造船界ニ直接
間接ニ非常ニ大關係ノアルコトデゴザイマスカラ、
逓信大臣ノ御意見ヲ此機會ニ伺ッテ置キタイト考ヘ
ルノデアリマス

○國務大臣(野田卯太郎君) 逓信省ハ御承知ノ通り
民業ヲ獎勵スルト云フコトハ、固ヨリ職務デゴザイ
マスガ、未ダ嘗テ貴方ノヤウナ正確ナ御議論ヲ聽イ
テ居リマセヌ、常ニ海軍ノ事業ニ立入ッテ調ブルカト
云フニ、御承知ノ通り管船局長ガ唯商賣船ノマア働
キヲ監視シテ居ルト云フニ過ギナイ話デ、私議員ト
シテ先年軍需動員、ナンチユーノデアリマス、軍需
動員、國勢調査會……アレハ私豫算會デ建議ヲシテ、
今御話ノ通りノ意味デシテ置キマシタ、成ベク有事
ノ日ハ民間ノ事業ガ發達シテ居ラネバ相成ラヌカ
ラ、民間ノ事業ヲ軍用上カラモ發達スルヤウニ致シ
タイト云フノデ、アレハ今ノ陸軍海軍ノ軍人ノミデ
ヤルト云フコトハイケナイ、民間ニヤラシテ置クガ
宜シイト云フ趣意ニ外ナラヌノデアリマス、國勢院
ノ方デ其後モ建議者ノ故ヲ以テ打合セテ受ケマシタ
カラ、相成ルベクサウ云フ風ニシタイト云フコト
ハ、今デモ考ヘテ居リマス、海軍デ餘計ナコトヲシテ
居ルト云フコトハ、今ノ造船業者邊リカラモ、モウ
チット聲ガアレバ、早ク聞イテ居ッタクモ知レマセヌ
ガ、一向話ガアリマセヌガ、尙ホ逓信省デモ調ベマシ
テ、實際言ヘバ逓信省ガ故障ヲ言フモノニ非ズシテ
民間カラモモウチットサウ云フ議論ガ出テ來ルト、私

ノ方モ早ク氣ガ付イテ居ッタクモ知レマセヌガ、マア
今日マデ全ク知リマセヌデシタガ、逓信省トシマシ
テハ、マア更ニ造ルコトハ今ノ際デゴザイマスカラ、
殊更ニ獎勵シテマデモ抗議ヲ容レル勇氣ガアルカ、
ナイカ、茲ニ明言出來マセヌ、今ノ造船所デ出來ルダ
ケノコトヲ海軍デ今カラ更ニ造ルト云フナラ餘計ナ
コトノヤウニ思ヒマス、調ベマシテ、海軍ノ方ニ
モ話シマセウ、是ダケ御答ヲ致シテ置キマス

○福永吉之助君 此工業動員ノ方デ、國勢院ノ方デ
調査ニナッテ居ルト云フコトデゴザイマスガ、是ハ定
メテサウデゴザイマセウ、然ルニ拘ラズ、海軍デ水陸
設備、總テノ工場ノ設備ヲスルト云フコトハ、少シク
矛盾シテ居リハセヌカト思ヒマス點モゴザイマス、カ
ラ、ソレ等ノ點モ合セテ尙ホ一ツ御助力ヲ御願ヒ致
シタイ

○國務大臣(野田卯太郎君) 宜シウゴザイマス

○福永吉之助君 政府委員ニ一ツ伺ヒタイト考ヘマ
スガ、民間ノ造船工場デ現ニ川崎ノ如キ三菱ノ如キ
其他海軍ノ艦船ヲ引受ケテ製造ヲ現ニ致シテ居リマ
ス、今日デモ海軍ニ於テ造船ノ計畫ト云フモノガ定
テ居ラナイ、或年ニハ數艦ヲ造リ、或年ニハ一艦モ
著手セヌト云フヤウナコトガ今日マデ往々ゴザイマ
ス、ソレデ民間ヘ縦合ヤ注文ヲスルトシマシテモ、或
年ニハ艦ヲ注文シ、或年ニハ艦ヲ注文シナイト云フ
ヤウナコトガ、現ニ今日迄アルノデアリマス、ソレ
等ガ民間ノ造船工場ノ事業ノ發展上又ハ海軍ト致シ
テモ、其計畫ガ立ッテ居ラヌト云フト、現ニ海軍ノ工
廠ノ如キ本年ハ數萬ノ職工ヲ要スルケレドモ、來年
ハ人ヲ減ジナケレバナラス、職工ヲ減ジナケレバナ
ラヌト云フヤウナコトガアリマスト同様に、民間ノ
工場ニ於テモ、サウ云フコトガ必ず有勝チノコトト
考ヘルノミナラズ、工場ノ設備ニ致シテモ、必ず然リ
ト考ヘマス、海軍デ造船ノ計畫ヲ定メテ其法ニ依ッ
テ、自己ノ造船所デモ造ル、併ナガラソレハ海軍ノ仕
事デアリマスルカラ、海軍省ノ都合ニ依ルコトデア
リマスルケレドモ、其計畫ヲ定メテ民間ヘ注文ヲス
ルトナッタナラバ、非常ニ民間ノ工場ハ便利ヲ得ルト
同時ニ、其造船ノ發達上裨益スル所ガ少クナイト思

フ、現ニ今日ハ八々艦隊ト云フコトモ御豫定ニナッ
テ、漸次其歩ヲ御進メニナッテ居ルヤウデアリマスル
ガ、今日ハ造船ノ計畫ト云フコトガ、海軍省トシテ
其歩ニ付カナイトハ考ヘラレナイノデアリマス、ソ
レデ逓信省ノ側デハ、民間ノ工業ヲ増進サセルトカ、
助成スル、其方カラシテ海軍ノ造船ノ計畫ヲ一定ス
ルト云フコトニ、當局ニ向ッテ御話合ヒデモシテ戴ク
ト云フコトガ當局ノ爲ニモ、又ハ造船所ノ爲ニモ、甚
ダ都合ノ宜イコト、考ヘマスルカラ、造船ノ計畫ヲ
定メテ、一定シタ數ヲ民間ヘ注文ヲナサルト云フコ
トハ、甚ダ宜シイコトト考ヘマスルガ、政府委員ノ御
見込ハドウデゴザイマセウカ、若シソレガ非常ナ利
益デアルト云フコトデアリマスナラバ、成ルベク促
進ノ方法ヲ御考ニナルコトヲ私ハ希望スルノデアリ
マス

○政府委員(若宮貞夫君) 實ハ最近迄ニ、御承知置
キノ通りニ日本民間ノ造船工場ハ何レモ相當仕事ヲ
持ッテ居リマシタ、相當仕事ヲ持ッテ居ッタク申上ゲマ
スルヨリハ、モウ能力以上ニ繁忙ヲ告ゲテ居リマシ
タノデアリマス、誠ニ御恥カシキ次第デゴザイマス
ルガ、私共モ、寧ロ其方ニ追ハレテ居リマシタ、仰セ
ノ如キ點ハ考ヘ及バヌノデアリマセヌガ、ソレ程
痛切ニ考ヘテ居ラナカタノデアリマス、最近ニ至リ
マシテ一般海運ノ悲況ニナリマシテ、造船工場モ閑
散ニ趣キツ、アルノデゴザイマス、私ドモ間接ナガ
ラ聞キ及ブ所ニ依リマスルコト云フト、我が民間ノ造
船工場ガ海軍ノ御用ヲ引受ケルト云フコトニ依ッテ、
ソレニ依ッテ辛ウジテ仕事ヲ繋ギ得ルト云フ實況デ
アリマスルノモ少カラヌヤウニ承ッテ居ル、自然唯今
福永サンノ仰セノ通り私ドモ相考ヘマス、私ドモ
微々タル者ガ如何トモ仕方ハナイコトデアリマスル
ガ、海軍當局ノ方トモ、能ク相談ヲ致シマシテ、成ル
ベク多量ニ、成ルベク繼續的ニ、民間ノ工場ニ仕事ヲ
出シテ戴クコト云フコトガ、私ドモノ氣付キトシテハ
往々談合ヲ致シテ居リマスノデゴザイマス、尙ホ御
趣意ノゴザイマス點ハ、定メシ逓信大臣モ御同感カ
ト心得マスルカラ、大臣ノ指圖ヲ受ケマシテ、相當相
談ヲ致シテモ宜シウゴザイマス、斯様ニ相考ヘテ居

リマス

○委員長(伯爵堀田正恒君) 外ニ御質問ハゴザイマセスカ

○男爵斯波忠三郎君 先程豫算ノコトヲ御説明ニナリマシタノデアリマスガ、年々六万圓

○政府委員(若宮貞夫君) 六万八千圓

○男爵斯波忠三郎君 六万圓、此額ハドウ云フコトナンドスカ

○政府委員(若宮貞夫君) 費用ト致シマシテハ、主トシテ人員費用、チヨット細カク申上ゲマスルト云フト最前申上ゲマシタヤウニ、調査費ヲ極メテ少額デハアリマスガ頂戴シテ居リマシタ、之ニ加フルノニ、約六万圓頂戴スルコトニナリマシタ、其兩方ヲ合計イタシマスルト云フト、技術官ガ十二人、書記官ガ一人、後ハ技手及ビ屬官若干名、斯ウ云フコトニ大體ナツテ居リマス

○男爵斯波忠三郎君 今仰セラレタ其技師十二名技手若干名書記官ヲ入レルコトハ勿論技師十二名ヲ全國ノ海岸ニ振撒カレル譯ナンデアリマスカ

○政府委員(若宮貞夫君) 左様デゴザイマス、御尋ニ付テ申上ゲマスルガ、十分デハゴザイマセヌ、是ダケノ仕事ヲ致スニハナカ、困難ヲ感ズルノデアリマスケレドモ、御承知ノ通り從來船舶検査等ニ從事シマスル爲ニ、相當人員ヲ頂戴シテ居リマス、此十二名ノ手デ之ヲ全部行フト云フ目途デハゴザイマセヌガ、從來ノ職員ヲ交ヘマシテ、互ニ分擔シテ遂行イタシテ行ク、斯ウ思ヒマス

○男爵斯波忠三郎君 凡ソ年々何度位ゾ、始末ヲ付ケテ行ク譯デアリマスカ、是等ノ人員デ...

○政府委員(若宮貞夫君) 御答ヲ申上ゲマス、唯今豫定イタシテ居リマスルノハ先程申上ゲマシタ通りニ、遠洋航路船、或ハ五百噸以上ノ近海航路船ヲ第一期ニ行フト云フコトヲ申上ゲタノデアリマスルガ、其第一期ノ分ヲ凡ソ三年ニ仕上ゲマスル、唯今豫定シテ居リマスルノハ、此定期検査ガ參リマス、各船ノ順序ガ違フノデアリマス、毎年極ク平均ニ同ジ分量ト云フコトハチヨット事實行ヒ難イノデアリマス、凡ソ推定イタシテ居リマスルノニ、第一年ニ汽船

ガ合計三百艘、其三百艘並ニ帆船ガ六十五艘ノ豫定ニナツテ居リマス、其中デ汽船ノ約三分ノ一ハ船級協會ニ分擔ヲサセ、ソレカラ第二ニハ大體同ジデアリマスルガ、マア茲ニ積ッテ居リマスルノガ、約汽船ガ二百八十艘、帆船ガ矢張り六十五艘其汽船ノ約三分ノ一ハ船級協會ノ、ソレカラシテ第三年ハ、總數ガ少シク増加イタシテ居リマスガ、汽船ノ數ガ約四百九十隻、帆船ハ同ジク六十五艘ニナツテ居リマス、而シテ約三分ノ一ハ船級協會ノ分擔ト云フコトハ前二年ト同様、斯様ニ豫定シテ居リマス

○男爵斯波忠三郎君 船級協會ノ分擔ト云フコトハ、ドウ云フコトナンデス

○政府委員(若宮貞夫君) 申上ゲタ言葉ガ甚ダ惡カッタノデ、此法案説明ノ際申上ゲマシタヤウニ、船級協會ノ檢定ヲ認メル積リニナツテ居リマス、ソコデ凡ソ三分ノ一程ハ船級協會ニ赴クコトデアラウ、斯ウ云フ豫定デアリマス、且ツ又併セテ申上ゲテ置キマスガ、船級協會ニ凡ソ是位赴イテ呉レマセスト云フト實ハ定ニ困リマスノデ、豫定並ニ希望ノ兩方ヲ含ンデ居ルコトト御聽取リヲ願ヒマス

○男爵斯波忠三郎君 成ルベク御勸誘力何カナサツテ船級協會ニ赴カシムベク御努メニナルト云フ御考デスカ

○政府委員(若宮貞夫君) 仰セノ通りニ考ヘテ居リマス

○男爵斯波忠三郎君 在來ノ海事官、技師デスカ、詰リ船舶検査ニ從事セラレル方デスカ、近頃船舶ノ數ハ非常ニ殖ニタノハ御承知ノ通りデアリマスガ、隨分手一杯ノ仕事ヲサレテ居ルヤウニ見ヘマスガ、其上ニ新ラシイ仕事ヲ分擔出來マスカ

○政府委員(若宮貞夫君) 從來船舶ハ激増ヲ致シ、又造船工場ガ甚ダ繁忙ヲ告ゲマシタ結果、船舶ノ検査等ニ從事シマス所ノ遞信省ノ技術官ガ、實ニ極端ニ申シマス、疲勞困憊非常ナル過度ノ激務ヲ負擔イタシマシテ、定ニ困難ヲ感ジマシタノデ、之ニ付キマシテハ屢々御心配ヲ煩ハシタヤウナ次第デゴザイマシタガ、最近若干ノ定員増加ヲ得マスシ、一面ニ於キマシテハ、從來ノ船舶ハ増加シタノデアリマ

スカラ、之ニ關スル検査等ノ事務ハ決シテ減ジマセヌガ、新規ニ新造イタス所ノモノノ方ガ減ジマシタ爲ニ、此増資ト新造船數カ減リマシタノト相俟チマシテ、今日ノ所ハ一時ニ較ベマスルト云フト幾分樂ニナリマシタ、勿論樂ニナツタト申上ゲマシテモ、決シテ手隙ガアル次第デハゴザイマセヌガ、一時ヨリハ餘程樂ニナリマシタ、丁度此機會ニ本法案ヲ實施イタシマスノニハ、都合ガ宜カラウカト斯様ニ實際上考ヘテ居リマス

○男爵斯波忠三郎君 序ニ伺ヒマスガ、マア昨年来造船事業ガ大分閑ニナツタヤウデアリマスガ、今年アタリノ新造船ノ見込ハドンナモノデアリマスカ

○政府委員(若宮貞夫君) 定ニ御恥シナガラ此點ニ付キマシテハ、私共同僚日々此問題ヲ議シマスガ、ドウモ何人モハッキリ見當リヲ附ケ得ナイノデアリマス、過日モ財政經濟調查會ニ於キマシテ、矢張り此見積リヲ附ケナケレバナラヌ必要ガ起リマシタノデ、昨年末ノ所デ見當リヲ附ケマシテ、年々約三十萬噸乃至三十五萬噸ハ今後製造スルデアラウカト斯ウ云フ推定ヲ致シテ居リマシタコトハ、御承知置キノ通りデゴザイマスガ、是トモ腹藏ナク申上ゲマスルト云フト、要スルニ吾々共ノ希望ヲ半バ含ンデ居リマス、我ガ海運ノ維持發達並ニ造船事業ノ維持發達ト云フ上カラ見テ、凡ソ是レ位ハ是非アツテ欲シイト云フ希望ヲモ含ンデ居ルコトデゴザイマスカラシテ、ドウモ矢張り卒直ニ十分ノ見當ヲ付ケ兼ネルト申上ゲルヨリ外イタシ方ナイト心得マス、但シ唯今計畫ト云フコトニ上ツテ居リマスモノハ、相當ゴザイマス、唯今山本技師ヨリ伺ヒマス所ニ依リマシテモ、本年一月以後ノ既ニ進水シタ分ヲモ含メマシテ、計畫ノ全部ガ二十七萬八千噸アルト云フコトデアリマス

○男爵斯波忠三郎君 二十七萬八千噸デスカ

○政府委員(若宮貞夫君) 尤モソレハ唯今山本技師ノ見込ニヨリマシタモ果シテ出來ルカドウカ見當ハ付カヌサウデアリマス

○委員長(伯爵堀田正恒君) 小松君ニ申シマスガ、今本案ニ付テ質問ニ入ッテ居リマスガ、御質問ガゴザ

イマシタナラバ……外ニ別ニ御質問ハゴザイマセヌカ

○橋本辰二郎君 本案ニ付キマシテハ參考書モ頂戴
イタシマシタガ、マダ今日初メテ此法案ヲ目ヲ通シ
タダケデアリマス、モウ一回質問ヲ續行スルト云フ
コトニ願ヒマシテ、今日ハ之ニテ御散會ヲスルヤウ
ニ願ヒタイモノト思ヒマス、ソレト共ニ先程政府委
員ノ御説明ニ依リマスレバ、大正六年ヨリ本案ノ調
査ニ御掛リニナツタト云フコトデアリマスカラ、定メ
シ此法案ヲ御拵ヘニナリ又其規定ヲ實行スル上ニ於
キマシテ、外國ノ事例ヲ御調ベニナツタコトモゴザイ
マセウシ、又實地外國ニ就キマシテ此事ニ付テ御取
調ベニナツタコトゴザイマスルナラバ、參考ノ爲
ニ概略ヲ宜シウゴザイマスガ、御取調ベノ結果ノ御
報告モ得ルコトガ出來マスルナラバ大變仕合セト思
ヒマス

○政府委員(若宮貞夫君) 誠ニ粗末ナモノデゴザイ
マスガ、マダ御覽ヲ戴ク暇ハナイノデアリマスガ、今
日御手許ヘ出シマシタ分ニ、外國ノ立法例ノ摘要ヲ
出シテゴザイマス、ソレヲ御覽置ヲ願ヒタイト思ヒ
マス

○委員長(伯爵堀田正恒君) 皆サンニ御諮リヲ致シ
マスガ、今橋本君カラ今日ハ是デ打切ツテ、モウ一回
委員會ヲ開イテ質問イタシタイト云フ御希望デゴザ
イマスガ、サウ云フ風ニ計ツテ宜シウゴザイマスカ

〔賛成ト呼フ者アリ〕

○委員長(伯爵堀田正恒君) ソレデハ今日ハ是デ散
會イタシマス

午後三時四十一分散會

出席者左ノ如シ

委員長 伯爵堀田 正恒君
副委員長 男爵斯波 忠三郎君
委員

小松 謙次郎君
男爵赤松 範一君
福永 吉之助君
星島 謹一郎君

國務大臣

橋本 辰二郎君

遞信大臣

野田 卯太郎君

政府委員

遞信省管船局長

若宮

貞夫君